

低用量ピルを用いた子宮内膜症や子宮腺筋症に対する治療法

1. 低用量ピルとは

低用量ピルとは、1錠に含まれるエストロゲンの量が0.05mg未満の薬です。低用量ピルには服用するホルモン量が一定している一相性と2段階に変化する二相性、3段階に変化する三相性ピルがあります。

2. 子宮内膜症に対する低用量ピルの効果

- 1) 月経痛の軽快
- 2) 月経量の減少
- 3) 排卵の抑制
- 4) 月経周期の延長または月経停止

これらの目的に最も適ったものは一相性のピルです。二相性や三相性のピルでは28日ごとに月経が来るため、月経周期の調節ができません。

3. 使用するピルの種類

オーソ M (ethinylestradiol 0.035mg, norethisterone 1.0mg)

マーベロン(ethinylestradiol 0.030mg, desogestrol 0.15mg)



オーソ M



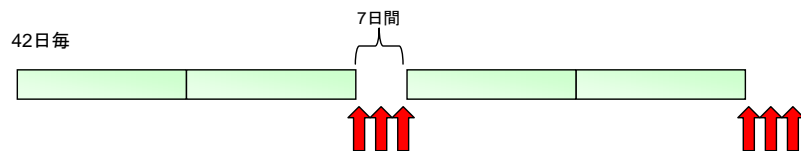
マーベロン

いずれも一相性の低用量ピルですが、黄体ホルモンの種類が異なっております。子宮内膜症に対する効果や服用時の出血などに違いがあると考えられています。

4. 低用量ピルの服用方法

1) 2シート連続服用法

月経開始5日目から低用量ピルを2シート(42錠)連続して服用。服用終了後1週間休薬して、服用を再開します。月経開始後最初の日曜日から服用すると、服用忘れの防止になり月経時期がわかりやすいなどのメリットがあります。



2) 連続服用法

月経開始5日目から低用量ピルを連続服用する。服用期間は3~6ヶ月間を目処とし、1週間の休薬期間をおいて再開します。



5. ピル服用時の出血とその対策

ピルの黄体ホルモンの効果により子宮内膜は薄くなり、月経量は減少または停止します。ピル服用中に見られる出血はピルのホルモン効果により子宮内膜が厚くなって剥がれ落ちる破綻出血とピルの服用忘れや中止により血中のホルモンが減少して子宮内膜が剥がれる消退出血があります。

ピルを正しく服用していても少量の点状出血が見られる場合があります。この場合には服用を続けてください。

ピルの服用を忘れていたり、正しく服用中していても月経のような出血があったりすることがあります。この場合は服用を中止して、いったん消退出血を起こし、1週間の休薬期間の後に服用を再開してください。

6. ピルの副作用

服用開始時の吐気:服用開始時におこる場合があります。服用を継続すれば軽快します。予防するには就寝直前の服用が効果的です。

血栓症:ピルによって起こる最も重篤な副作用です。喫煙者、肥満、年齢が40歳以上の方などがリスク因子です。ピル服用中は定期的に検査をお受けになってください。

7. ピル服用時の検査

- 1)一般血液検査(貧血の有無や白血球、血小板の状態をみる)
- 2)生化学検査(肝機能や腎機能、コレステロール値をみる)
- 3)血液凝固検査(血液凝固の状態から血栓のリスクを判定する)
- 4)乳房検査(乳がんのスクリーニング検査)

1)~3)は4~6ヵ月毎に行い、4)は適時行います。

8. ピルの効果の個人差

子宮内膜症や子宮腺筋症に対するピルの効果には個人差があります。ピルの服用により月経が完全に停止して快適な日常生活が送れる方もいれば、破綻出血による点状出血が続いたり、月経量が以前より増えてしまったりする方もいます。来院ごとに詳しい問診を行いますので、月経や服用時の出血の状況を担当医にお知らせください。

効果が不十分であったり、出血がしばしば起こったりする場合には、ピルの種類を変更するか他の治療法を行います。

9. ピルの処方について

低用量ピルには健康保険が適応されておらず、自費になります。また、院内薬局では取り扱っておりませんので院外処方になります。院外薬局によっては店内在庫が無く、取り寄せになる場合もあります。

当院3号館の玄関前にある日生薬局ではオーソ Mとマーベロンを常備しております。

料金の目安:2シート(5,090円)、4シート(8,450円)、6シート(11,810円)